

岐阜県立羽島北高等学校

学 校 長 林 靖

学校所在地 岐阜市柳津町北塚3-1-10 電話 058-388-3611

1 会議の名称 岐阜県立羽島北高等学校評議員会 (第2回)

2 会議の構成 学校評議員

青木 秀益 柳津青少年育成会議委員
熊谷 康 カラフルタウン岐阜 プレジデント
近藤 芳子 柳津佐波女性の会
藤井 忍 本校PTA会長
三輪 浩子 羽島北高等学校同窓会

(委員名は五十音順)

学校側

林 靖 校長
西村 美穂 教頭
竹花 容子 事務長
村上 宏俊 教務主任
福島佳代子 進路指導部長
前田 輝美 生徒指導部長
郡 美穂 特別活動部長
竹尾 真希 研究推進部長

3 会議の目的 学校運営について地域住民や有識者等から幅広く要望や意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
(岐阜県立羽島北高等学校学校評議員設置要綱第1条)

4 会議の開催 令和3年1月18日(月)

5 会議の概要 (1) 本校の「ふるさと教育」について
・今年度のふるさと教育について概要説明
・1年生、2年生の「総合的な探究の時間」の授業参観
・協議
(2) 本校の教育活動全般について
・生徒会役員による発表
・生徒及び保護者等を対象とするアンケート結果分析報告
・協議

(1) 本校の「ふるさと教育」について

学校：羽島北高校では、昨年度より、将来地域を支え地域に貢献できる人材の育成をねらいとして、「ふるさと教育」を展開してきた。授業参観の感想も含め今年度の取組に対するご意見をいただきたい。

○「ふるさと教育」の地域課題探究型学習（HK Tマイプロジェクト）について

意見 1 1年生の総合的な探究の授業では、リーダー研修の伝達講習をしていたプレゼンターがよく頑張っていた。生徒の反応を見ていると、もう少し柔軟な発想ができるとよいと思った。探究学習、アクティブラーニングは今後さらに必要となる。（今年度は難しかったかもしれないが。）

意見 2 ラテラルシンキング（水平思考）を取り入れて進めている点が素晴らしい。これから大きく変わる世の中では「知恵」が大切で、若い時から知識と経験とを積んでいくことが重要である。この学びを進めてほしい。

意見 3 探究の授業は、主体性、発信力を持つ子どもを育てるのにとってもよい機会だと感じた。地域の問題を深めるというのはなかなか難しいことである。あるグループは人口減少の問題を取り上げていたが、興味深い内容だった。SDGsについての高校生の考え方は、企業側からするととても興味深い。新しい生活様式などについて考えを深め、高校生がどう考えているかを新しいツール（ユーチューブなど）でどんどん発信させていったらどうか。高校生の考え方を社会は知りたがっている。

意見 4 探究学習で取り入れられているKJ法やKP法は、社会に出ても通用する思考法である。また、QC活動は工場などでも活用している。高校生という、いわば社会への入り口段階で積極的にこのようなトレーニングをすることには大きな意義がある。また、地域のことを考えるという視点は、自分の高校時代にはなかった。地域のことを考えるというのは、高校生にとっては大きな経験になるだろう。地域の課題を自分で見つけるというのはなかなか難しいので、生徒が興味を持てる課題（買い物難民、就学力、交通サービスなど）を設定してもいいのではないか。問題を解決するということではなく、考えるプロセスが重要である。

意見 5 生徒たちが探究活動にまじめに取り組む姿を見て感心した。

意見 6 今の高校生は授業でこのような活動をしているのだと知った。社会に出て、仕事に就いたら、必ず役に立つことだと感じた。

意見 7 PTAとしても探究活動に全面的に協力していきたい。柔軟な発想力を育むためにはどうしていったらよいかは課題である。興味のわく分野を設定するのがよいのではないかな。

意見 8 今年度は感染症対策のため、アクティブラーニングができないという致命的な状況があった。2022年からスタートする新学習指導要領では、身近な課題を「探す」ところから求められている。しかし、小中時代に課題探究教育を受けていない現在の高校生にとっては、なかなか酷な要求である。ある程度教員側から参考課題を提示する必要があるかもしれない。

意見 9 施設での活動を P D C A サイクルで行っており、若い人々にアセスメント能力が必要だと感じている。マニュアル対応は得意だが、表面しか見ないと課題まで到達できない。

○「ふるさと教育」の地域ボランティア（H K T ゆいまーるプロジェクト）について

意見 1 : 地域密着のための課題として、地域と学校がコラボする活動はどうか。例えば本校の裏の堤防を除草して芝桜を植えるなど。

意見 2 : ここ最近はなくなった柳津の「桜祭り」を高校生が参加して復活させる、お年寄りに向けてのパソコン・スマホ教室、囲碁教室、茶道部のお茶の会、児童館での学習指導を行うなど、地域に出て活動する形はたくさんある。

(2) 本校の教育活動全般について

意見 1 : 今年度は企業でも実習の受け入れができず、オンラインでの実習を実施した。できる方法を模索するとよい。

学校 : 学校でもオンラインでの学習支援を進めている。

質問 : 家庭の Wi-Fi 環境が整っていない生徒もいるのではないかな。

学校 : 調査したが、ほとんどの家庭に受講できる環境があった。環境のない生徒には DVD で対応した。

意見 2 : 一人一人の能力に応じているかが課題と言われたが、学力差や能力差が大きく、これまでの高等学校教育の枠を越えている。これまでは一律授業でよかったかもしれないが、学力差等に対応するための新しい方法を考えていく必要がある。

学校 : 高校も義務教育に近い状況になりつつあると感じる。本校は様々なニーズに対応するために単位制に移行したというところもあり、今後は I C T 活用を推進していくつもりである。

意見 3 : 社会では、仕事で 6 割超えれば O K と言われている中、アンケートの「この学校に入学できてよかった」「子どもが喜んで学校に行っている」という回答の割合が非常に高い。教員の努力には自信を持ってよいと思う。また、本校の生徒は、マナーを身につけており、社会で求められる根本的なことができている。課題探究学習でも、解決まではできなくても、その活動に誇りを持って取り組み、好きだという気持ちがあることが大切なのではないかな。

意見 4 : アンケートの結果からすると、探究学習やボランティアは生徒の意識にはあるが、定着は今一つというところではないかな。長い目で、徐々にできるところからやっていくことが大切である。また、フィードバック（評価）を伝えるなど、もう少しわかりやすく動機づけにつながるようにするとよい。

意見 5 : 商工会、自治会、企業、施設などが協力体制を構築し、知恵を絞って方法や内容を検討してはどうか。今までと違った視点（場合によっては 1 8 0 度違うやり方）で考えていく必要がある。

6 会議のまとめ

第二回学校評議員会では、本校の「ふるさと教育」の今後の取組と展開についてご意見をいただきました。

本校のふるさと教育の要素の一つ一つを非常に高く評価していただき、またその社会的意義を改めて示していただいたことで、試行錯誤で進めている教員一同は、非常に勇気をいただいたところである。また、同時に、なかなか生徒に評価されないという点についても、具体的な助言をいただくことができた。

本校の教育活動全般についても、それぞれ高い評価をいただき、今、我々が課題と感じている個に応じた学習についても、一つ高い視点からのご助言をいただいた。それにより我々の視野も広がったと感じる。

今回、ご指摘ご助言いただいたことをもとに、取組内容を精査しつつ、一層充実した教育活動を展開していきたい。